

会 議 議 事 録

1 会議名	令和5年度第2回長岡市高齢者保健福祉推進会議
2 開催日時	令和5年10月13日（金曜日） 午後1時30分から午後2時45分まで
3 開催場所	アオーレ長岡 4階 大会議室
4 出席者名	（委員）野口委員長 川崎副委員長 井佐委員 岡村委員 覚張委員 鯉江委員 小林委員 横澤委員 佐々木委員 竹内委員 郷委員 稲垣委員 舩越委員 米山委員 （事務局）介護保険課長 福祉総務課長 長寿はつらつ課長 健康増進課長 長岡市社会福祉協議会事務局長ほか 関係職員
5 欠席者名	高橋委員 長谷川委員 鈴木委員 大倉委員 山崎委員
6 議題	(1) 第9期計画総論（案）について (2) 第9期策定の進捗状況について (3) その他
7 資料	別添のとおり
8 審議の内容	
発言者	議 事 内 容
介護保険課長補佐	○資料確認等 (ここからは委員長が進行)
委員長	○会議の傍聴・公開についての確認 ※傍聴者なし。 会議が公開であることの説明。 ○議題（1） 第9期計画の総論（案）について ○議題（2） 第9期計画の進捗状況について を続けて、事務局から説明願う。

<p>担当課より説明 (介護保険課長) (福祉総務課長) (長寿はつらつ課長) (健康増進課長)</p>	<p>(資料No.1—1、1—2、1—3、資料No.2をもとに説明)</p>
<p>委員長</p>	<p>ただいまの説明について、質問等あるか。</p>
<p>委員</p>	<p>資料No.1—1の20ページ、重点項目のところで2点ほど提言したい。</p> <p>1つ目は重点項目「(2) 認知症の人やその家族を支援する認知症施策」について、認知症は他人事だと思っている方も多く、「認知症」という言葉に抵抗感がある方も多い。物忘れから認知症に繋がっていくこともあるため、健康診断の時に「物忘れ診断」といった検査項目を設け、早期発見、早期受診につなげてみてはどうか。</p> <p>2つ目は重点項目「(3) 在宅福祉サービスの充実」について、資料には「自分がどう過ごしたいのかを考える市民が増えるよう意識を醸成する」「家族と話し合っておくことの大切さも啓発する必要がある」という記載があるが、南魚沼市社会福祉協議会が実施している「ライフデザインノート」を活用してみてはどうか。全国的には「人生ノート」の一種であり、老後の生き方の一助にしている取り組みである。</p> <p>同市は、書き方等をレクチャーし、今後の人生をどうするのかを見つめ直す機会として取り組んでいる。これを活用することで、家族との話し合いや、老後どう過ごしたいのかを考える機会になると考える。各論への記載になると思うが、お願いしたい。</p>
<p>長寿はつらつ課長</p>	<p>1点目の認知症の早期発見について、現在、健康診断の項目ではないが、集団健診の会場で希望者を対象に、タッチパネルを利用した認知症自己診断の機会を設けている。委員がおっしゃったように、そこで結果が出ても、なかなか自覚がない方もいるため、どのように医療機関への受診につなげていくのが課題と感じている。今後、私どもも研究していきたいと考えている。</p> <p>また、本人に認知症の自覚がなく、家族が困っている方のために、「あんしんガイドブック」を発行している。物忘れ傾向等がある方に見ていただきたい内容であり、これらを有効活用できるよう考えていきたい。</p> <p>2点目について、私どもは「ライフデザインノート」を実施していないが、市民対象の講演会を年に複数回実施している。今年度は、これから実施する予定のため、このなかで市民に周知したいと</p>

<p>委員</p>	<p>考えている。</p> <p>資料No.1-1の21ページ、「在宅サービスの充実」について、「地域密着型サービスの普及促進を図っているが、サービス稼働の伸び悩みが課題」と記載されているが、長岡市は、広域型の特別養護老人ホームや老人保健施設が充実している。他にも有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅もあり、ショートステイやデイサービス、訪問介護や訪問看護といった在宅サービスも充実しているため、介護ニーズに応えていると思う。</p> <p>地域密着型サービスについて、数字的な課題があるが、役割は十分果たしていると思う。地域密着型サービスと、在宅サービス（ショートや訪問介護）の内容が重なっているところもあり、利用するサービスの選択もできることから、サービスが提供なされていると考える。</p>
<p>介護保険課長</p>	<p>長岡市は各種サービスが非常に充実している面がある。しかし、地域密着型サービスは、在宅サービスを支える重要なサービスと考えているため、普及促進に努めていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>今ほどの地域密着型サービスの普及促進について、小千谷市の地域密着型特別養護老人ホームでも待機者がいないといった状況であり、同様の課題があると聞いている。</p> <p>市内に地域包括支援センターがたくさんあるが、施設によって年中無休であったり、土・日・祝日が定休日であったり、営業日がまちまちのため、利用する市民が不便を感じているのではないか。また、センターの職員が忙しいという話も聞いているため、人員が不足状況であるのかとも考えている。</p> <p>「高齢者はり・きゅう・マッサージ施術費助成事業」について、利用できる施術所一覧をいただいたが、川口地域では利用できる施術所が無かった。訪問してもらえるとありがたいのだが、長岡地域にそういった施術所が集中しており、離れた地域の方は利用できないため、その地区に密着した施術所を対象に含めてもらえるとありがたい。</p>
<p>長寿はつらつ課長</p>	<p>地域包括支援センターの営業日や人員不足について、センターによって営業日がまちまちであり、市民が混乱されていることは承知している。人員不足に共通する部分だが、委託法人の人員体制が影響してくることから、今後、市民が不便に思わない体制が組めるように協議したいと考えている。</p> <p>次に、はり・きゅうマッサージ施術費助成事業について、対象の施術所が、地域によってははないという話だが、現状、施術所が増え</p>

	<p>る状況ではなく、横ばいもしくは減少傾向である。このような意見があることを折に触れて、長岡鍼灸マッサージ師会に伝えていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>現役世代の介護離職について、以前から介護離職の把握が難しいと伺っていたが、今朝のニュースで介護離職が取り上げられており、職場の中でも分かり難く、離職に繋がっているという内容だった。労働組合を通じて話を聞いているが、なかなか目に見えない、把握できないというところがある。</p> <p>総論の重点項目の中に、介護保険制度の周知が十分ではないのか、サービスを必要としている人が適切に受けていないのではないのか、といった記述もある。介護離職に繋がらないよう、引き続き目配せをお願いしたい。</p>
<p>福祉総務課長</p>	<p>介護離職に繋がらないために、まずはサービスの充実や周知が必要だと考えている。介護保険サービスの提供にあたり、周知をきちんと行いたいと思う。また、介護人材を確保した上で、基盤整備を行い、介護サービスの提供が行えるようにしていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>重点項目で認知症施策の推進があったが、国の大きな方向性から鑑みれば当然、取り組むべき内容かと思う。</p> <p>その中で、早期発見、相談支援体制はもちろん、認知症に特化したサービス（通所介護、認知症の通所介護、グループホーム）があることから、地域密着型サービスの普及に向けて、長岡市が取り組むことは非常にありがたい。各事業所が力を入れてサービス提供を行っているため、そういったところも、市民が安心して暮らせる社会に向けての一つのPRかと思っている。</p>
<p>介護保険課長</p>	<p>各事業所で様々な特徴のある取り組みをされていられるため、長岡市も各法人や各事業所と連携しながら、サービスの普及に努めて参りたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>本日は第2回目の推進会議であり、せっかくの機会でもあるため、委員お一人お一人から第9期計画や、計画だけじゃなくても、意見や感想があったら、一言お願いしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>介護サービスについて、足りていると話が出ていたが、身の周りの中で、個人で介護サービスを頼んでいる事例が結構ある。いわゆるヘルパーで、介護サービスでなく、自分でお金を出して契約しているという事例が多いが、市は把握しているのか。</p>

<p>介護保険課介護事業 推進係長</p>	<p>介護保険サービス利用者の実態等は把握しやすいが、介護保険外のサービスを利用している方の把握についても引き続き努めて参りたい。そういった声があれば、市にも聞かせただければ大変ありがたい。</p>
<p>委員</p>	<p>両親4人を介護し、介護サービスを利用した経験がある。24時間、一人の高齢者を一人で介護することは困難なことであり、家族みんなが力を合わせてやらないと本当にできないものだと感じた。初めて会議の委員となり、私自身も勉強させていただいている。介護の実態を把握したうえで、社会情勢の変化に対応しての第9期計画が策定されており、実現してほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>現在、はつらつ介護予防に参加しており、参加者同士で予防が一番であり、健康寿命を延ばそうという気持ちで活動している。 新聞等で、帯状疱疹は80歳までに3人に1人が発症すると取り上げられている。県内では3市町村で予防接種の助成を行っているため、長岡市でも検討していただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>今期から民生委員として活動を始め、この会議に参加したが、これまでは畑違いの仕事をしてきた。介護保険サービスは重要なことだと思うため、私自身も勉強していきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>先日、事業所の運営推進会議に出席した際に、地域の一般の方から「介護が必要になった時は、どこに相談していいか分からなくて困っている」という話が出た。昔はよくある話であったが、現在でも、そういう方がおられる。（包括支援センターなどの）相談窓口だけでなく、それぞれの事業所が「まちを支える・暮らしを支える」役割を果たしていかなければならないと思っている。行政や関係機関と一緒に頑張って取り組んでいきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>資料No.1-1の24ページ、「地域包括ケアシステムの推進」の記載がある。自助、互助、公助、共助の「4つの助」で推進していくが、福祉サービスの「公助」や介護保険サービスの「共助」に頼りがちになる傾向ある。サービス頼りでは限界が来るため、フレイル予防をするといった「自助」であり、グループ活動等による健康意識の向上といった「互助」が必要になると思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>第9期計画の総論の中に新たに、人材確保の項目が加えられたが、介護人材の確保に向けた取り組みを引き続きお願いしたい。介護職員から直接の相談はないが、利用者家族から、職員の身体を心</p>

委員	<p>配する相談が寄せられているほどであり、介護現場は困難な状況だと考えている。</p> <p>また、国は配置基準を緩和するような動きを見せているが、介護の職場はマンパワー中心のため、職員が十分に配置されるような施策なども含め、処遇の改善に引き続き取り組んでいただきたい。</p> <p>先ほど、介護保険制度外のヘルパー利用の話が出たが、ヘルパー事業所は、本当に人員が不足していて依頼を受けられない状況があると思う。また、介護保険制度の中で提供できるサービスとそうでないサービスもあり、受診の付き添いは制度内のサービスであっても、なかなかできない状況もある。</p> <p>提供する介護サービスの種類が増えれば増えるほど、提供するサービスごとに職員を配置しなければならず、人が不足してしまう。仕方がない部分であるが、ある程度のサービス種類を選別しながらやっていかないと、人員の不足は続いていくと思う。</p>
委員	<p>長岡市は11地域が合併して、長岡地域に人口の3分の2が集中している。市民も高齢化が進んでいることを承知していて、何かをしなければと思っているが、地域によって人口数の差が大きい。</p> <p>その状況を踏まえ、将来に残るような方法を今考えておかないと、人口減少・高齢化の問題は何も解決しない。今回の計画に限らず第10期や第11期と、先の将来を見据えて、どういう方向性で持っていくのかを考えていくことが非常に重要だと考えている。</p>
委員	<p>事務局がつくった基本方針に期待している。この会議に出席するだけでなく、地域の詳しい情報提供等の依頼があれば、役に立ちたいと思う。</p>
委員	<p>長岡市は、医療も介護サービスも充実していると思うが、看取り対応に力を入れてもらいたいと感じている。日本はがん疾患が多いが、医療用麻薬を使える施設はほとんど病院しかない。管理の問題や規制等もあるが、特別養護老人ホーム等でも、広く対応できることを期待している。</p> <p>資料No.1—3の調査結果で興味深い箇所がある。調査対象は介護保険サービス利用者だが、「サービスを受けたいが手続きや利用方法がわからない」という回答者がおり、どんなに周知しても利用者に理解されていないことが結果から見えてくる。介護保険制度やサービスの周知については、積極的に進めていかなければならないと思う。</p>
委員	<p>介護離職の話が出たが、個々に理由があると思う。直接的な介護</p>

副委員長	<p>が必要というだけでなく、見守りや近所へ迷惑をかけていないかといった心配事が負担になることもある。</p> <p>資料No.1—3について、昨今はヤングケアラーが問題視されていることもあり、4ページの「主な介護者の年齢」で20歳未満が0%の結果だったことが気にかかる。</p> <p>義理の母が入院した時の経験から、「介護が必要になった時に自分はどうか過ごしたいか」を考えるための啓発に人生ノートの活用が有効だと考える。また、日頃から話ができる家族関係は大事だと思う。</p> <p>資料No.1—1、17ページに「3 高齢者世帯と住居の状況」の記載があるが、地域によっては高齢単身世帯、高齢夫婦世帯はこれ以上に増えていると感じている。民生委員をして6期になるが、高齢者の単身世帯や、高齢者夫婦世帯は増えており、回りきれない現状がある。そういった世帯はいろんな問題を抱えている方が多い。</p> <p>与板地域の地域包括支援センターの職員は、フットワークが良い方がおられ、いろいろ相談に乗ってもらっている。これまで民生委員が直接対応していたところに専門職が入ってもらえるため、非常に助かっている。</p> <p>福祉は窓口が広くて奥行きが深い。誰もが高齢になるわけであり、他人事じゃなくて、もう自分のことと考えていかざるを得ないと強く思っている。</p>
委員長	<p>委員の皆さん、ありがとうございました。</p> <p>最後に「その他」について、事務局から何かあるか。</p>
介護保険課長補佐	<p>(配布資料をもとに説明)</p>
委員長	<p>全体を通して、質問等はあるか。 (質問なし)</p> <p>進行を事務局にお返しする。</p>
介護保険課長補佐	<p>長時間にわたり、ご審議いただき感謝申し上げます。ありがとうございました。</p> <p>○閉会</p>